

演題番号：A1

県内野生猪の監視強化による養豚農場への豚熱侵入リスクのみえる化と農場指導強化

○徳永 到

三重県中央家畜保健衛生所

1. はじめに：平成30年岐阜県で26年ぶりに豚熱が発生し、令和元年7月には三重県内で豚熱が発生した。令和元年10月、豚熱ワクチンの全頭接種が県内全農場で開始され、県内農場の豚熱発生は収まったかに思われた。しかし令和2年12月、つづいて令和3年4月に、ワクチン接種実施農場で豚熱が発生した。ワクチン接種農場での豚熱の発生は県内農家の不安と動揺を引き起こした。これに対処すべく、三重県では感染源である野生イノシシの捕獲と豚熱感染状況の調査の強化を実施。同時に各農場にセンサーカメラを設置し、農場への野生イノシシ接近の状況調査を行い、高リスクと判断した農場に対しては随時警告と重点指導を実施した。

2. 方法：三重県庁に豚熱対策班を設置、希望のあった36農場にWEB通信機能付センサーカメラを設置し、野生動物が撮影されるごとにリアルタイムで農場にメールで通報するシステムを構築した。またカメラ画像の解析を委託し、野生イノシシと判定されたものについては、管轄家畜保健衛生所に連絡が来る体制となり、野生イノシシの接近防止と侵入防止について、農家にタイマーに指導を行うこととなった。また野生イノシシの捕獲と豚熱感染状況の調査強化について

は、三重県猟友会に協力を依頼。猟友会の確保した検体を、中央家畜保健衛生所の出先検査室に輸送し、家畜保健衛生所を経由することなく検査が速やかに実施できる体制を整えた。

3. 結果：カメラ設置希望のあった36農場のうち、半年間でイノシシが撮影されたのは21農場であった。その21農場の中でも月に20回以上イノシシが撮影された高リスク農場は5農場で、そのうち野生イノシシの感染率の高い地域の3農場について重点指導を行い、侵入防止柵の強化や、柵外の網の設置による干渉地帯の作成によるリスク低減を行った。

4. 考察：野生イノシシを見た、見ないというあいまいな情報を農場近接のカメラで撮影を行うことでみえる化し、実際にリスクの高い農場を客観的に判定できるようになった。また野生イノシシの捕獲検査の強化で感染の波を予想し、タイマーに指導を行うことで効果的な防疫指導が行えるようになり、養豚農家、家保お互いが納得して対策を実施できた。